

事例集の執筆に向けたイメージ

クローズな学び、地域に交流拠点を拓くオープンな居場所・喫茶コーナーの成り立ちと現在（国立市公民館のコーヒーハウス・40周年）

（キーワード：一緒に楽しみ共に悩む共生を目指す学び、オープン・クローズ）

◇国立市公民館のコーヒーハウスの事例的な特徴

- ・ 障害者青年学級/青年室/喫茶わいがやによる重層的システム
 - ターゲットアプローチを包含するユニバーサルアプローチのあり方？
 - オープンな場とクローズな場の組み合わせ
- ・ 「たまり場」としての空間
- ・ 「学びと余暇」「障害者と健常者」「目的的活動と無目的活動」等の共生（混在）
 - 葛藤や対立との付き合い方
 - 自分たちの経験や思考を言語化する仕組み
- ・ 職員の立ち位置

◇執筆に向けて

- ・ 都市型の公民館における先駆的実践として、これまでも繰り返し言及されてきており、本検討会の問題意識との関係の中で、どの部分に注目するかは要検討
- ・ 実践に関する資料や論考が豊富で、エピソード等も充実している点ありがたい
- ・ 40年にわたって少しずつ形を変えながら現在に至っており、事業としての企画・運営的な側面を意識しづらい

障害者の参画（公運審、図書館協議会、自立支援協議会など）

（キーワード：障害者本人と一緒に場をつくる）

◇ポイントになりそうなこと

- ・ 社会教育（施設）における住民参加の意味
 - 委員の多様性をいかに確保できるかが課題になるはず
- ・ 学習者を「与えられる側」にしない（＝学びを自分で作る）仕組みとしての意義
 - 障害者の生涯学習を考える上で、とても重要な視点と言えるはず
- ・ 学習機会への参加を支援する場合との違い（考慮すべき点や支援方法など）
- ・ 各種の仕組みへの参加を通じて、他の委員や関わる職員への影響などにも触れられるとよさそう。

◇執筆に向けて

- ・ 取り上げるべき事例にたどり着けておらず、改めて、こういった事例を取り上げるべきかは、相談したい。